

平成も押し迫った4月27日土曜日13時半に「かぐらの里デイサービスセンター」を訪問した。この日から10連休の始まりということで世の中は浮かれ模様であるが、毎日が休日の私には今日は2,500連休目くらいか？

閑話休題、ここで「かぐらの里」の名称について説明しておきます。(私の想像です)久喜市鷺宮に『鷺宮神社』があります。一説には崇神天皇(第10代天皇・3世紀後半に実在)の時代に河内国から東国へ移住した土師氏が下総国浅草から利根川を上って当地に移住した際に先祖を祀ったのが起源ではないかと言われています。鷺宮神社で奉納される「鷺宮催馬楽神楽」は関東神楽の源流とされ、「鷺宮催馬楽神楽保存会」が伝承活動を行っています。



今回は5回目の訪問で座員5人での公演となりました。

いつものように玄関入口に色彩豊かにチョークで書いた「いまいがいの熊谷座」の看板で出迎えていただきました。

衣装の着替えは併設されている『保育園』の教室を利用しました。最近では座員一同着替えが実に早くなりました。これも公演回数のおかげです。



公演は14時10分から15時までの50分と言うことで「南京玉すだれ基本」「きよしのズンドコ節」「麦畑」「マジック」「オカリナ」の5本構成としました。



「自己紹介」では各自『皿回し』を披露し、皆様に練習の成果を見ていただきました。





次に「マジック」、初お目見得のリングを使った手品や消えるハンカチ、新聞紙に水の3種類の技もまずまずの出来栄でした。



「オカリナ」の演奏、皆さん聞きなれた曲目の演奏で6曲。どれも素晴らしい出来映えです。

通所者の方々も、口ずさんだり、ウツリと耳を傾ける人などでした。

我々が演じているような大道芸は《衣装七分、芸三分》と言われています。衣装の派手さ、袴姿の目新しさ、袴と着物の彩りの良さが「南京玉すだれ」の芸を一段と際ださせています。

感激したのは観客の女性より「着物の色がとっても素敵ですね」「袴が珍しくて高そう」と誉められたことです。着物に詳しく、着物が大好きな人なのでしょう。座員の感想でした。

公演の後に「通所者」のみなさんと記念写真を撮っていただきました。おみやげもいただきました。「いがまんじゅう」も入っていました。

#### 《番外》

加須は「うどんの町」です。訪問の前に昼食を取るために『手打ちそばうどん松の木』（むさしの村の近く）に立ち寄りました。

全員で「天もりうどん」を注文しましたが、うどんの量の多さと腰の硬さにみんなでビックリ、女性陣は食べ切れず、男性陣はそれをフォローするも悪戦苦闘を強いられました。「三熊会」のみなさんも挑戦して見てください。

記：高木 民男

写真：中山 陽子